

エソール広島の活動状況の検証について

〔 令和 3 年 7 月 2 日 〕
わたらしい生き方応援課

エソール広島の令和 2 年度の活動状況について取りまとめを行い、その内容について検証する。

1 エソール広島の利用状況

(1) 利用者数

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインによる講座を積極的に推進したものの、施設の利用自粛要請や、利用定員を通常の 50% としたことなどから、利用者数は昨年度に比べて大幅に減少し、13,963 人となった。

区分		令和 2 年度 A (割合)	令和元年度 B (割合)	平成 28 年度	対前年比 A/B
利用者数		13,963 人 (100.0%)	20,322 人 (100.0%)	10,563 人	68.7%
内 訳	研修室・交流スペース利用	11,310 人 (81.0%)	15,719 人 (77.3%)	—	72.0%
	図書の貸出しや情報収集等 での利用(フリースペース利用)	2,653 人 (19.0%)	4,603 人 (22.7%)	—	57.6%
(参考)外部施設で開催した財団主 催又は共催の講座等の参加者数		1,579 人	4,519 人	—	34.9%

※ 利用自粛要請を行った期間

令和元年度：R2.3.8～3.31 (24 日間)、令和 2 年度：R2.4.1～5.17 (47 日間)

※ 研修室・交流スペース利用者数については、オンライン参加 (4,524 人) を含む。

(2) 研修室及び交流スペースの稼働率

① 全体の稼働率

施設の利用自粛要請を行ったため、研修目的等での稼働率は 67.9% で昨年度を下回ったが、自粛要請期間を除くと昨年度と同様である。

区分	開館日数 A	研修目的等での利用日数 B	稼働率 B/A
令和 2 年度	358 日 (311 日)	243 日 (237 日)	67.9% (76.2%)
令和元年度	357 日 (333 日)	260 日 (253 日)	72.8% (76.0%)

※ ()内は、新型コロナ感染拡大防止のため利用自粛要請を行った期間 (R2.3.8～3.31 及び R2.4.1～5.17) を除く。

② 研修室、交流スペース別の稼働率

「研修室（2室の平均）」の稼働率は29.5%で、昨年度に比べて5.5ポイント下回った。これは利用自粛要請期間以外においても研修や会議の開催が自粛された影響が考えられる。

なお、「研修室」「交流スペース」共に、夜間より昼間の利用が多く、特に「研修室」は平日、土日ともに午後は4割程度の稼働率となった。

「研修室」の利用人数単位の稼働率は18.4%で、昨年度に比べて4.6ポイント下回った。交流スペースは、昨年度に比べて1.3ポイント上回った。定員の50%利用や少人数の利用が進んだ影響が考えられる。

【研修室単位の稼働率】

区分	昼間						夜間		合計	令和元年度
	平日			土日			平日	土日		
	午前	午後	計	午前	午後	計				
研修室	38.8%	41.3%	40.0%	40.9%	47.2%	44.0%	7.0%	4.5%	29.5%	35.0%
交流S	12.6%	13.9%	13.2%	25.0%	20.5%	22.7%	4.0%	1.1%	11.7%	12.2%

※ 利用自粛要請を行った期間（47日間）を除く（次の表において同じ）

【利用人数単位の稼働率】

区分	昼間						夜間		合計	令和元年度
	平日			土日			平日	土日		
	午前	午後	計	午前	午後	計				
研修室	19.9%	26.1%	23.0%	28.6%	36.7%	32.6%	4.4%	2.3%	18.4%	23.0%
交流S	9.8%	10.4%	10.1%	39.0%	13.8%	26.4%	2.1%	0.6%	10.3%	9.0%

※ 利用人数単位の稼働率の算定に当たっては、利用実態を考慮して研修室1室当り30人、交流スペース1室当たり10人を標準値として算定している。

(3) 研修室及び交流スペースの利用状況の分析

① 団体区分別・利用形態別の利用人数

団体区分別でみると、企業・NPO等が5,770人(51.0%)で最も多く、利用形態としては、講座・研修での利用が62.9%となっている。

次いで、行政が19.5%、男女共同参画財団の主催事業が17.2%となっている。

企業・NPO等や男女共同参画財団の主催事業では、オンラインによる参加利用を積極的に推進したこともあり、利用者数は昨年を上回った。

区 分	令和2年度 〔団体別割合〕 (利用形態割合)	(利用形態)			令和元年度	対前年比
		講座・研修	交流会	会議・打合せ		
女性団体	1,394人 〔12.3%〕 (100.0%)	401人 (28.8%)	316人 (22.7%)	677人 (48.6%)	6,022人	23.1%
企業・NPO等	5,770人 〔51.0%〕 (100.0%)	3,629人 (62.9%)	969人 (16.8%)	1,172人 (20.3%)	4,143人	139.3%
行政	2,200人 〔19.5%〕 (100.0%)	763人 (34.7%)	856人 (38.9%)	581人 (26.4%)	3,997人	55.0%
男女共同参画 財団(主催事業)	1,946人 〔17.2%〕 (100.0%)	1,762人 (90.5%)	93人 (4.8%)	91人 (4.7%)	1,557人	125.0%
合 計	11,310人 〔100.0%〕 (100.0%)	6,555人 (58.0%)	2,234人 (19.8%)	2,521人 (22.2%)	15,719人	72.0%

② 利用回数区分別の利用状況

3回以上利用している団体は37団体で全体の35.6%を占め、これを利用人数で見ると6,398人で、利用総数(11,310人)の56.6%となっている。

また、利用実態としては、起業支援や子育て支援、就業支援などの連続講座の開催などで、利用している団体がみられる。

(単位：団体)

区 分	令和2年度	(団体区分)			令和元年度
		女性団体	企業・NPO等	行政	
10回以上	8	4	4	0	8
5～9回	15	6	7	2	13
3～4回	14	7	3	4	18
3回以上計	37	17	14	6	39
全利用団体数	104	38	48	18	144
3回以上の比率	35.6%	44.7%	29.2%	33.3%	27.1%

区 分	令和2年度	(利用形態)			令和元年度	対前年比
		講座・研修	交流会	会議・打合せ		
3回以上利用して いる団体の利用人数	6,398人	4,443人	414人	1,541人	10,476人	61.1%

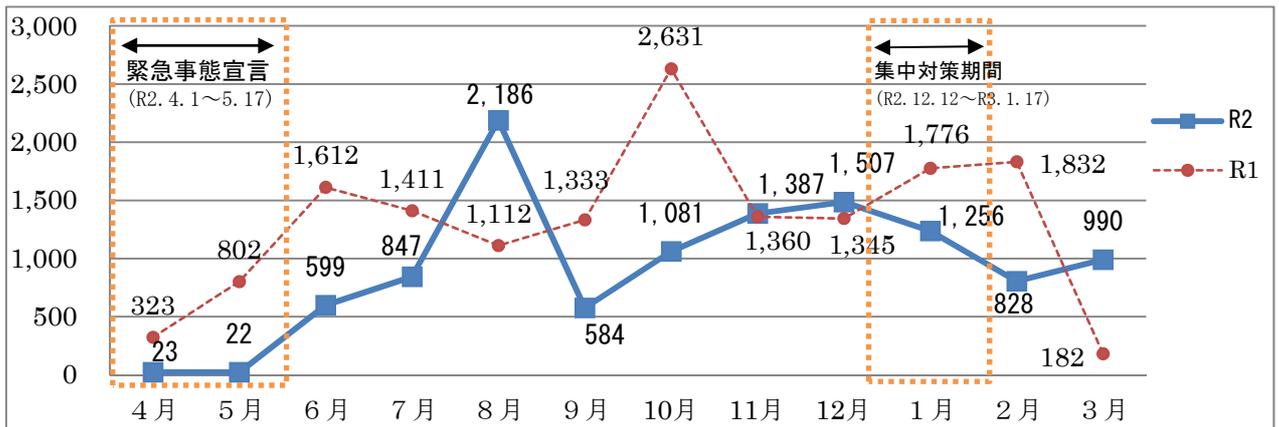
③ 月別の利用状況

4～5月にかけては、緊急事態宣言期間中に利用自粛要請を行った影響により利用者は大幅に落ち込んでいる。

また、1年を通じて利用定員を通常の50%としたため利用者数は低迷しているが、11月～12月は昨年を上回る利用があったほか、8月は国際・平和に関して多様な主体が交流するイベント等が多く開催されたことから、利用者数は2,000人を超える利用があった。

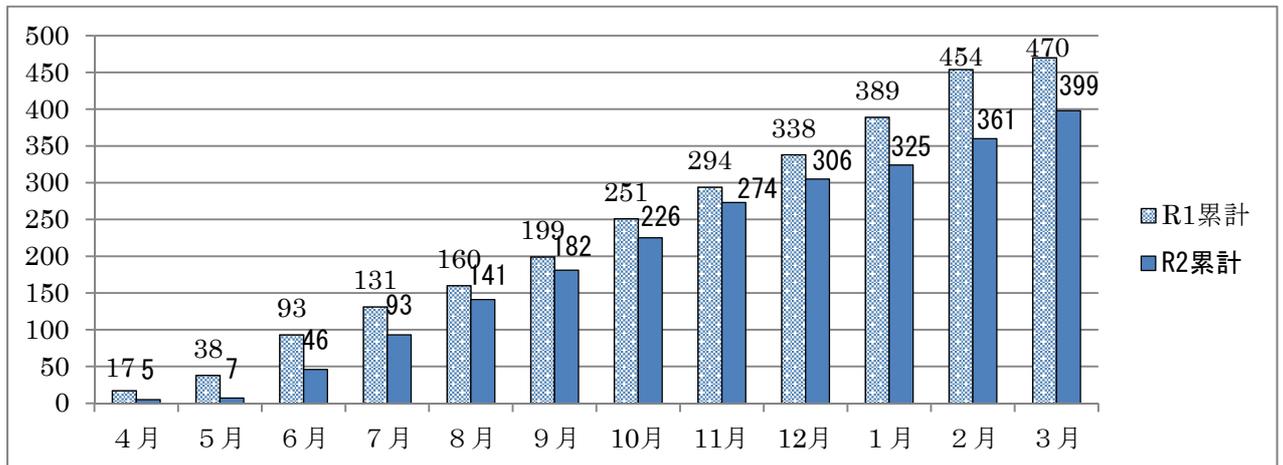
○利用者数

(単位:人)



○利用件数 (累計)

(単位:件)



④ 平日・土日別の利用状況

利用人数の最も多い時間帯は、平日・昼間の6,626人(58.6%)で、次いで土日・昼間の3,918人(34.6%)だった。

利用形態としては、平日・土日とも「講座・研修」が多く、次いで平日は会議・打合せが多く、土日は交流会が多い。

団体区分では平日・土日とも「企業・NPO等」の利用が最も多く、次いで、平日は行政の利用が多く、土日は男女共同参画財団の主催事業が多い。

夜間については、令和元年度から開館時間を9:30～21:00に拡大したが、夜間の外出自粛要請により利用時間を20時までとしたため、夜間の利用が減少した。

※ 開館時間9:30～18:00をH31年度から9:30～21:00へ拡大

【利用形態別の利用人数】

区 分		令和2年度 (割合)				令和元年度	対前年比
		(利用形態)					
		講座・研修	交流会	会議・打合せ			
平日	昼間	6,626人 (58.6%)	3,927人 (34.7%)	1,060人 (9.4%)	1,639人 (14.5%)	8,636人	76.7%
	夜間	641人 (5.7%)	195人 (1.7%)	214人 (1.9%)	232人 (2.1%)	1,962人	32.7%
土日	昼間	3,918人 (34.6%)	2,396人 (21.2%)	952人 (8.4%)	570人 (5.0%)	4,873人	80.4%
	夜間	125人 (1.1%)	37人 (0.3%)	8人 (0.1%)	80人 (0.7%)	248人	50.4%
合 計		11,310人 (100.0%)	6,555人 (58.0%)	2,234人 (19.8%)	2,521人 (22.3%)	15,719人	72.0%

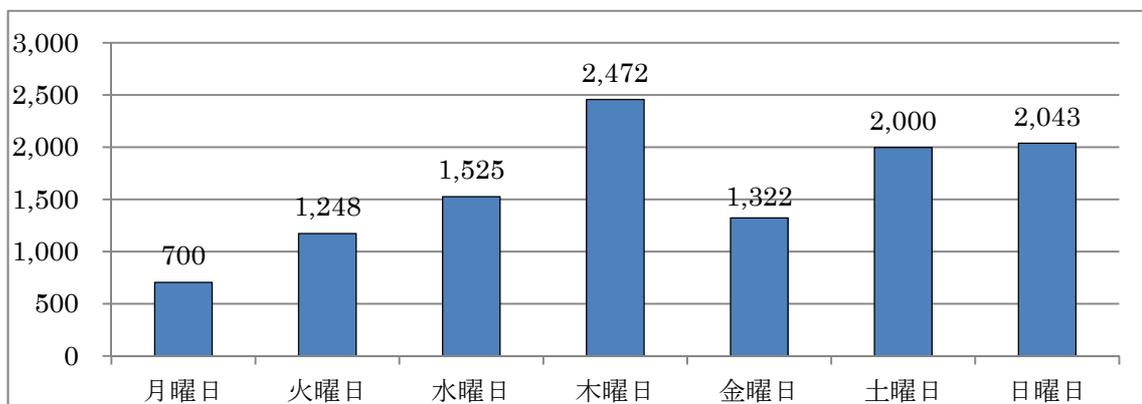
【団体区分別の利用人数】

区 分		令和2年度 (割合)				
		(団体区分)				
		女性団体	企業・NPO等	行政	男女共同参画財団 (主催事業)	
平日	昼間	6,626人 (58.6%)	863人 (7.6%)	2,979人 (26.3%)	1,922人 (17.0%)	862人 (7.6%)
	夜間	641人 (5.7%)	28人 (0.2%)	375人 (3.3%)	238人 (2.1%)	0人 (0.0%)
土日	昼間	3,918人 (34.6%)	500人 (4.4%)	2,339人 (20.7%)	40人 (0.4%)	1,039人 (9.2%)
	夜間	125人 (1.1%)	3人 (0.0%)	77人 (0.7%)	0人 (0.0%)	45人 (0.4%)
合 計		11,310人 (100.0%)	1,394人 (12.3%)	5,770人 (51.0%)	2,200人 (19.5%)	1,946人 (17.2%)

⑤ 曜日別の利用状況

木・土・日曜日は、利用者数が2,000人を上回った。

(単位：人)



(4) 登録団体の利用状況

利用促進の広報に力を入れたため、男女共同参画の推進を目的としてエソール広島を利用して活動する団体として、令和2年度に新たに12団体が登録し、令和3年3月末現在で52団体となった。

① 登録団体の状況

区分	団体数	(新規)
公益社団・財団法人	3 団体	(2 団体)
一般社団・財団法人	8 団体	(2 団体)
NPO法人	7 団体	(1 団体)
その他任意団体等	34 団体	(7 団体)
計	52 団体	(12 団体)

② 所在市町別の状況

区分	団体数	(新規)
広島市	46 団体	(12 団体)
広島市以外*	6 団体	(0 団体)
計	52 団体	(12 団体)

*竹原市，府中市，東広島市，廿日市市，府中町，坂町（各1団体）

③ 登録団体の利用状況

区分	件数
職場等における女性活躍の支援 ・キャリアアップ支援 等	44 件
家庭における男女共同参画の促進 ・子育て支援 等	23 件
地域社会活動における男女共同参画の促進 ・地域における女性活動の支援 等	38 件
その他 ・ひとり親支援，健康支援 等	41 件
計	146 件

(5) 施設利用の評価

新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用自粛要請や利用定員の50%削減、夜間の利用時間短縮などから、利用者数は令和元年度を下回ったものの、オンラインによる講座等を積極的に推進したことで企業・NPO等や男女共同参画財団の主催事業の利用者は増加した。

一方で、アフターコロナを見据えながら、男女共同参画の拠点として、更に立地環境の優位性を活かして利用拡大を図る必要がある、次の点に取り組む必要があると考えられる。

- ① オンラインによる利用を更に拡大するとともに、連携や交流に繋げるための仕掛けなどにより利用を拡大すること
- ② 夜間については、働く方を対象とした交流会や勉強会等の利用を促進することにより、研修室等の稼働率を引き上げること
- ③ 引き続き、財団との共催事業や情報発信等で連携して取組を行っていく登録団体の数を増やしていくこと

(6) 今後の取組

新型コロナウイルス感染防止を日常生活に取り入れた「新しい生活様式」に対応しつつ、アフターコロナを見据えたうえで、次の取組によって利用拡大を図る。

- ① リモートワークやウェビナー（インターネット上で行われるセミナー）等の広がりを受け、オンラインによる利用を現在の4,524人から倍増を目指す。
- ② 平日夜間の利用については、異業種交流会や勉強会等の利用を引き続き拡大していくよう利用促進活動を行うとともに、研修室全体の稼働率を29.5%から60%に引き上げることを目指す。
- ③ 財団と連携して取組を行っていく登録団体数を100団体とすることを目標に、未登録の団体へ積極的に働きかけを行っていくとともに、そういった団体を通じて、利用の周知を図り、利用拡大につなげていく。

以上のような施設の稼働を向上させる取組を推進していくことにより、令和4年度の年間利用者目標の30,000人の達成を目指していく。

また、企業・NPO等と連携して、今日的テーマについて意見交換や交流の機会を設けるなどして、自主的・自律的で活発な活動や交流を広げ、県内全域の男女共同参画の施設としての拠点性を高めていく。

2 男女共同参画に関する事業の実施状況

エソール広島は、男女がその個性と能力を十分に発揮し、職場や地域、家庭などの社会のあらゆる分野において共に参画していくために必要な事業を展開し、男女共同参画に関する研修・交流事業の企画実施や、相談事業、情報の収集及び提供等を実施している。

令和2年度は、集合型研修や移動の制限などがあったが、エソール広島を活用してもらえよう、オンライン参加を可能としたことや市町でのWeb中継を行った多くの講座で、参加者の拡大を図れた。

また、コロナ禍が女性の心と生活にどのような影響を及ぼしているのかを把握するため、5月にアンケート調査を実施した。その結果や相談事業の内容から浮かび上がってきた課題について、様々な分野の専門家によるインタビュー動画をリレートーク形式でYouTubeにより配信し、助言、アドバイスをを行った。

加えて、コロナ禍でこれまでにない閉塞感が蔓延した状況の中、将来、自分らしいキャリアを拓くためのヒントや人生の選択肢を考えてもらうため、広島で活躍するプロフェッショナルな方をゲストに迎えてのセミナーを開催した。

さらに、相談事業において増加傾向にあるLGBTをテーマに、保有する図書を有効活用し、来館者に学んでもらえるようビブリオバトル（読書会・勉強会）を初めて開催した。

(1) 研修・交流事業の企画実施

① 職場等における女性活躍の支援

- ・働く女性や子育て中の女性などが、多様な生き方や働き方について考えるためのきっかけづくりを目的とした講座と交流会
- ・コロナ禍における女性の生き方や働き方など、専門家による考え方や情報のWeb配信
- ・SDGsに掲げるジェンダー平等に関する取組として、DVやハラスメントに焦点をあてた講座（相談事業においてDV関連が増加傾向（例年の約1.2倍）。）
- ・働く上で必要なコミュニケーション力等のスキル習得のための研修

区分	事業数（回数）		参加者数（人）		
	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	対前年比
財団主催事業	36	33	1,738	1,644	105.7%
（うち企業等からの受託）	(17)	(22)	(613)	(1,406)	(43.6%)
共催事業	2	29	130	1,928	6.7%
計	38	62	1,868	3,572	52.3%

※ 個別の事業の詳細については別紙のとおり（以下、②～④において同じ。）。

② 家庭における男女共同参画の促進

- ・親子で家事をシェアしやすくする工夫などを学ぶことを目的とした講座
- ・子育て中の女性の心と体を支援するための講座とワークショップ
- ・再就職希望の子育て中の女性などを支援するための講座

区 分	事業数 (回数)		参加者数 (人)		
	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	対前年比
財団主催事業	1	8	41	172	23.8%
(うち企業等からの受託)	-	(1)	-	(12)	-
共催事業	28	21	743	303	245.2%
計	29	29	784	475	165.1%

③ 様々な困難や生きづらさの解消と安心づくりのための支援

- ・生活上の困りごとや悩みごとを抱えている方々に対応する相談員を育成するための研修
- ・女性に対する暴力やLGBTなど性的マイノリティの方々への理解を深め、様々な困難や生きづらさを抱えている方々の解消につながるような講座や共催事業

区 分	事業数 (回数)		参加者数 (人)		
	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	対前年比
財団主催事業	18	29	1,024	2,267	45.2%
(うち企業等からの受託)	(9)	(14)	(670)	(1,663)	(40.3%)
共催事業	2	12	50	937	5.3%
計	20	41	1,074	3,204	33.5%

④ その他

- ・地域における防災活動や、男女共同参画の視点を持って活動できる人材の育成を目的とした研修
- ・若年層が、広島で活躍する専門家から学び、自分らしいキャリア形成のヒントや選択肢を考えるためのセミナー

区 分	事業数 (回数)		参加者数 (人)		
	令和2年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度	対前年比
財団主催事業	3	4	150	174	86.2%
(うち企業等からの受託)	-	(2)	-	(138)	-
共催事業	-	5	-	555	-
計	3	9	150	729	20.6%

⑤ コロナ禍における課題等に対応した新たな事業

コロナ禍が女性のこころや生活にどのような影響を及ぼしているのかを把握するため、5月に女性を対象に実施したアンケート結果及び相談事業の内容を基に、「生き方・働き方」、「子育て・家事」、「家族・高齢社会」、「LGBT」などのテーマを設定し、各分野の専門家によるインタビュー動画を、6月からYouTubeで配信した。

18回の配信をライブラリ化し、いつでも視聴できる状態にしており、再生回数は合計で約3,700回となった。

⑥ 事業の評価

財団が主催する研修事業や交流事業の参加者アンケート結果の満足度は 90%を超えるなど高い評価を得ている。一方で、一部の事業は定員に満たないものもある。そのため、エソール広島を利用している団体の活動内容や相談事業の分析等によって、ニーズに合致したテーマを選定するとともに、Web 活用や市町でも受講できる LIVE 配信等により、受講者増に取り組む必要があると考えている。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動自粛もあり、財団の事業の実施時期が下半期に偏り、全体事業量が減少したことから、通年での事業の平準化を行う必要があると考えている。

さらに、受託事業については、より周知活動を行うことによって、幅広く利用されるよう努めることにより、更に取り組む余地があると考えている。

⑦ 今後の取組

相談件数が増加したDVやLGBTに関する啓発や研修など、社会情勢の変化を踏まえ、ニーズに合致したテーマを選定し、理解の促進を図るとともに、Web を活用した公開講座等により参加者を拡大させる。

また、計画的に事業に取り組むことにより、全体事業量を確保する。

さらに、受託事業については、幅広い団体からの活用を促進し、利用団体とのネットワークを広げていく。

(2) 相談事業

① 一般相談

家族や職場における人間関係などに関する悩みに対して、電話相談は週5日（水曜日、日曜日、休日以外の日）実施し、その中でも複雑な悩みを抱えた案件などについては、面接相談（原則として毎週金曜日）に移行している。電話相談と面接相談を合わせると、2,073 件の相談が寄せられている。

○相談件数

区分	電話相談	面接相談	計	対前年比
令和2年度	1,933 件	140 件	2,073 件	104.2%
令和元年度	1,858 件	131 件	1,989 件	-

○相談内容

相談内容	令和2年度	令和元年度	対前年比
家族（夫婦，子ども，親等）に関すること （離婚，夫婦間のDV，子どもの教育，親の世話など）	876件 (42.3%)	863件 (43.4%)	101.5%
男女間や職場の人間関係など対人に関すること （男女・隣人・友人・職場等対人関係におけるトラブルなど）	471件 (22.7%)	504件 (25.3%)	93.5%
健康，孤独などの人生における不安や悩みに関すること （病気を抱える辛さや不安，今後の生き方など）	601件 (29.0%)	542件 (27.3%)	110.9%
その他 （法律や福祉など様々な情報の収集など）	125件 (6.0%)	80件 (4.0%)	156.3%
計	2,073件 (100.0%)	1,989件 (100.0%)	104.2%

○相談者の年代

区分	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	不明	計
令和2年度	80件 (3.9%)	202件 (9.7%)	503件 (24.3%)	485件 (23.4%)	551件 (26.6%)	198件 (9.6%)	54件 (2.6%)	2,073件 (100.0%)
令和元年度	56件 (2.8%)	198件 (10.0%)	463件 (23.3%)	540件 (27.1%)	436件 (21.9%)	265件 (13.3%)	31件 (1.6%)	1,989件 (100.0%)

○相談者の地域別件数（電話）

地域	相談件数	内訳
広島市	1,318件 (68.2%)	
広島市以外	576件 (29.8%)	呉市7，三原市30，尾道市2，福山市52，東広島市45，廿日市市14，安芸高田市3，府中町8，海田町5，熊野町2，安芸郡1，庄原市2，世羅町2，三次市3，不明400
県外・不明	39件 (2.0%)	
計	1,933件 (100.0%)	

○相談者の地域別件数（面接）

地域	相談件数	内訳
広島市	112件 (80.0%)	
広島市以外	28件 (20.0%)	呉市2，三原市1，福山市1，東広島市2，廿日市市4，安芸高田市1，府中町1，熊野町3，北広島町1，不明12
計	140件 (100.0%)	

ア DVに関する相談（一般相談の内数）

今年度は特にDVに関連した相談が増加し、348件、昨年度比で22.1%増となった。

○ 相談件数

区分	電話相談	面接相談	計	対前年比
令和2年度	279件	69件	348件	122.1%
うち夫婦間のDV	158件	56件	214件(61.5%)	—
令和元年度	250件	35件	285件	—

○ 年代別件数

区分	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	不明	計
女	42件	66件	72件	48件	91件	12件	5件	336件
男	—	2件	7件	1件	2件	—	—	12件
計	42件 (12.1%)	68件 (19.5%)	79件 (22.7%)	49件 (14.1%)	93件 (26.7%)	12件 (3.4%)	5件 (1.4%)	348件 (100.0%)

○ 地域別件数

区分	件数		内訳
広島市	265件	(76.1%)	
広島市以外	76件	(21.8%)	呉市2, 三原市4, 尾道市1, 福山市4, 東広島市9, 廿日市市10, 安芸高田市2, 江田島市1, 府中町4, 北広島町1, 熊野町1, 不明37
県外・不明	7件	(2.0%)	
計	348件	(100.0%)	

イ 専門機関との連携

喫緊に対応する必要がある深刻な内容の相談については、事案に応じて、警察や病院などの専門機関につないでいる。

専門機関	令和2年度	令和元年度	主な事例
警察	5件	11件	ストーカーやDV被害
病院	14件	12件	ストレス等による心身の不調
行政機関（こども家庭センター等）	45件	20件	DV, 性被害
弁護士, 家庭裁判所等	30件	30件	離婚, 相続
民間施設	13件	—	法律に基づく事務手続き
計	107件	73件	

② L G B T相談

L G B T相談は平成 29 年 10 月から開設しており、開設当初は月 1 回の実施であったが、平成 30 年 6 月からは毎週土曜日を相談日として窓口を開いている。

また、30 歳代までの若い世代からの相談が、全体の 6 割を占めており、一般相談 (37.9%) と比較すると、多い傾向にある。

○ 相談件数

区分	電話相談	面接相談	計	対前年比
令和 2 年度	196 件	1 件	197 件	114.5%
令和元年度	172 件	0 件	172 件	—

○ 相談者の年代

区分	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代以上	不明	計
令和 2 年度	14 件 (7.1%)	37 件 (18.8%)	71 件 (36.0%)	4 件 (2.0%)	2 件 (1.0%)	63 件 (32.0%)	6 件 (3.0%)	197 件 (100.0%)
令和元年度	3 件 (1.8%)	21 件 (12.2%)	82 件 (47.7%)	15 件 (8.7%)	10 件 (5.8%)	35 件 (20.3%)	6 件 (3.5%)	172 件 (100.0%)

○ 相談者の地域別件数

地域	相談件数	内訳
広島市	60 件 (30.5%)	
広島市以外	32 件 (16.2%)	尾道市 17, 東広島市 1, 廿日市市 4, 江田島市 1, 不明 9
県外・不明	105 件 (53.3%)	
計	197 件 (100.0%)	

ア 専門機関との連携

専門機関による支援が必要な内容の相談については、病院や行政機関につないでいる。

専門機関	令和 2 年度	令和元年度	主な事例
病院	4 件	9 件	性転換に関する悩み
行政機関(労働局等)	10 件	2 件	職場でのハラスメント
計	14 件	11 件	

③ 事業の評価

令和2年度の一般相談（電話・面接）は2,073件で、相談内容としてはDVに関連した相談が増加傾向にあり、面接相談は69件で昨年度の約2倍となったほか、LGBT相談については、相談窓口を開設した平成29年度以降、毎年度増加している。

また、専門機関との連携についても、一般相談、LGBT相談ともに増加しており、必要に応じて適切な専門機関へ繋ぐ重要な役割を担っているため、専門機関との連携もさらに重要となってきている。

上半期は、「新型コロナウイルスが女性に及ぼす影響について」の緊急アンケートをWebで調査し、その結果を公表するとともに、信頼できる相談先についての悩みが判明したことから、「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う相談先・情報一覧」をホームページで公開した。引き続き、県民のニーズを捉えた情報発信を行うとともに、相談窓口の認知度を高める必要がある。

④ 今後の取組

相談事業は、現在の社会状況を背景として、様々な困難を抱えている人の直接の声が届くことから、今後は、専門家などの意見を聞いて相談内容を分析し、必要に応じて関係機関等と連携しながら、現在エソール広島が実施している男女共同参画に関する講座やLGBT研修などの事業に反映させていく。

また、生活上の困りごとや悩みごとをはじめ、コロナ禍の影響による様々な困難や、増加傾向にあるDVに関連する相談など、どこに相談すればよいか分からないといった方々の最初の公的な相談窓口として広く認知されるよう、ホームページやSNS等の活用とともに、市町や関係団体と連携した研修会などの場を活用して、周知拡大を図っていく。

(3) 情報の収集及び提供

① ホームページ等の活用や文献情報などによる情報発信・提供

相談が増加するとともに研修受託事業で関心の高まっているLGBTをテーマに、来館者に理解を深めてもらうため、情報スペースの図書を有効活用したビブリオバトル（読書会・勉強会）を開催した。

また、コロナ禍により様々な状況下で困難を抱えた方々の一助となるよう、DV相談、生活困窮に係る相談、子育てや教育に係る相談など、国をはじめとした行政機関が設置した相談窓口や生活上の困りごとに対応する各種情報などについて、県民が一元的に情報収集できるサイトをホームページに掲載した。

行政資料や新規書籍を定期的に収集・追加し、その情報をSNS等を活用して発信している。

② 事業の評価

ホームページをはじめ、SNSやメールマガジンの配信などのWebを活用し、内閣府の定める啓発週間に係る周知、統計的な情報の提供を行うとともに、広島県の女性活躍関係情報の周知等にも取り組んでいる。

エソール広島の拠点性を向上させるためには、取組が一層効果的なものになるよう、男女共同参画に関する活動を行っている団体・個人間の交流を促進させることが重要である。

また、各種団体の情報を財団が把握して提供できるようデータを整備する必要がある。

③ 今後の取組

内閣府や県の発信する各種統計情報をホームページやSNS等に掲載し、県民への継続的な情報提供を実施していくなど、男女共同参画の促進に資する情報発信の内容を充実させていく。

また、男女共同参画に関する活動を行っている団体情報や人材情報をデータベース化し、他の団体等に紹介するなどして、これらの団体等の活動の活発化を図る。

さらに、エソール広島の拠点性を向上させるとともに、性別や年齢に関わりなく誰もが活躍できる環境づくりのため、社会情勢を踏まえた今日的なテーマについての情報発信を行い、活発な活動や交流を促進する。

3 県としての検証の総括について

令和2年度は、コロナ禍における施設の利用自粛要請を行うなど制約のある中での活動だったが、オンラインやWeb中継の活用によって利用者の広がりが見られることから、この取組を強化するとともに、立地環境の優位性を活かしながら、さらなる認知度向上や利用拡大を図っていく必要がある。

また、財団が実施する研修や交流事業、情報収集・提供等の事業について、社会情勢の変化や相談の内容等を踏まえながら、内容を充実させていく必要がある。

県としても、「わたらしい生き方応援プランひろしま」に基づき、性別や多様な分野で活躍している個人や団体が出会い、学び、情報収集し、ネットワークができる場としてエソール広島が活用されるよう、今日的テーマについて意見交換や議論する場づくりや活動発表・交流の機会づくり、人材情報や活動情報の公開を行うことなどにより、自主的・自律的な活動や交流が広がっていくよう引き続き支援を行うとともに、毎年度、施設の利用状況や事業の実施状況等を検証していく必要があると考えている。

1) 職場等における女性活躍支援のための主な事業

①財団主催事業

エソール きらめき トークラ イブ	目的	社会で活躍している女性のマイストーリーを語ってもらい、参加者が自身の働き方・生き方について考えるきっかけとなり、前に進んでいくことにつながることを目的とする。
	対象	女性
	参加者数	190人（うちZoomによる参加者58人） 〔内訳〕広島市177人、福山市1人、東広島市1人、廿日市市5人、府中町5人、尾道市1人
	内容	・女性起業家や社会的活動を実施している女性をゲストスピーカーに迎えてのセミナーと参加者同士の交流イベント ・7回
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：95.2% 受講者の声：「チャレンジすると変わるんだ！と勇気をいただいた。自己実現の大切さを知った。」「他人の評価ではなく自分軸で生きていく事が大切だと思った。」

エソール つながる トークリ レー 【新規】	目的	コロナ禍等により、様々な社会的課題で悩んでいる女性に対して、これから生きていく上での考え方や参考になる情報などを提供することにより、悩みの解消などにつながることを目的とする。
	対象	女性
	内容	・5月に女性を対象としたアンケート結果や、相談事業の内容を基に、「生き方・働き方」「子育て・家事」「家族・高齢社会」「LGBT」等のテーマを設定し、各分野の専門家による考え方や情報をYouTubeにより配信 ・18回配信（1回あたり約20分） ・再生回数は合計で約3,700回

男女共同 参画公開 講座	目的	男女共同参画の推進のため、SDGsのジェンダー平等やLGBT等について認識し考えてもらうことを目的とする。
	対象	全般
	参加者数	828人（うちZoomによる参加者674人）
	内容	・SDGsのジェンダー平等や、これからの働き方、LGBT等をテーマに、ハラスメント、性暴力、貧困などの社会的課題の要素を取り入れた専門家による公開講座 ・6回
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：73.5% 受講者の声：「具体的事例も含めて大変理解しやすく、改めてジェンダーについて考えることができた。」「内容的には満足したが、聞き取りにくいところが多く、理解できない場面が多かった。耳が少し遠いのでリモートは無理だと感じた。（Zoom参加者）」

エソール ひろしま 大学	目的	男女共同参画の推進のため、困難・不確実性が拡大する時代に、自主性・自立性を持ち、柔軟に考え、生き抜く力を身に付けた人材の養成を目的とする。
	対象	全般
	参加者数	107人（うち Zoom による参加者 78人） 〔内訳〕広島市 49人、竹原市 6人、三原市 6人、府中市 10人、廿日市市 6人、安芸高田市 6人、安芸太田町 6人、大崎上島町 15人、県外 3人
	内容	・女性目線で考える防災や、ジェンダー平等の課題、コロナ禍のDV問題等をテーマに、社会的課題の解決に向けた人材を養成するための講座 ・6回連続講座
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：100.0% 受講者の声：「グローバルな視点で問題を考えるといったレベルの高い内容であり、とても有意義で勉強になった。」「色々な分野の方々と繋がれる良い経験となった。研修の機会があっても自分の意見を述べるのが苦手なので、皆さん自分の意見を論理的に話していて良い刺激になった。」

② 企業等からの受託研修事業

内容	委託者（数）	回数	参加者
働き方や職業に関すること	大学（1）	1回	43人
コミュニケーションスキルの向上	企業等（1）	13回	495人
新入社員研修	企業等（1）	3回	75人
計	大学（1）、高校（2）、企業（2）	17回	613人

（2）家庭における男女共同参画促進のための主な事業

①財団主催事業

お手伝い 共育キッズ セミナー	目的	家庭でのお手伝いをテーマに、家事の共有だけでなく、親子間のコミュニケーションの向上を図る。
	対象	親子
	参加者数	41人（うち Zoom による参加者 5人） 〔内訳〕広島市 38人、東広島市 1人、府中町 2人
	内容	・家庭でのお手伝いをテーマにした親子で学べる体験型のセミナー ・昨年度の延期分 1回（7月実施）
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：77.7% 受講者の声：「子どもへの声のかけ方や年齢に応じたやり方を教えて頂き助かった。」「子どものやる気を引き出せた。自分がやった方が早いと思い敬遠していたが、今後はやらせようと思った。」

②共催事業

内容	主催者（数）	回数	参加者
子育て中の女性への支援	行政（7）、企業等（21）	28回	743人

（3）様々な困難や生きづらさの解消と安心づくりのための支援に係る事業

①財団主催事業

メンタルサポーター養成講座（基礎編）	目的	対人援助活動に携わっている方が、基本姿勢となる「信頼を築く」ために必要な基礎的な知識や技法などの習得を目的とする。
	対象	学校、地域、職場などで相談を受ける立場の方等
	参加者数	68人 〔内訳〕広島市47人、呉市3人、尾道市6人、廿日市市3人、府中町3人、北広島町3人、県外3人
	内容	・共感を伴うコミュニケーション能力の向上を目指して、「聞く技術」に焦点を当てた、初心者でも学ぶことができる講座 ・3回連続講座（9月実施）
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：満足度 100% 受講者の声：「聞くという技法について、ロールプレイを数回重ねて自分の在り方を見つめ直すことができました。」「聞くことの重要性を実感でき、これからは活かせる内容だった。」
メンタルサポーター養成講座	目的	複雑多様化する相談に対応するために、男女共同参画の視点を持った相談員を養成することを目的とする。
	対象	学校、地域、職場などで相談を受ける立場の方等
	参加者数	286人 〔内訳〕広島市220人、尾道市8人、福山市2人、庄原市14人、東広島市8人、廿日市市10人、海田町6人、府中町2人、安芸太田町4人、北広島町8人、県外4人
	内容	・家族の変容、子どもの諸課題、DVと児童虐待等をテーマにした講座と演習（7回連続講座） ※第6・7回の講座は、新型コロナウイルスの蔓延防止のため延期 ・昨年度の延期分1回（7月実施）
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：満足度 77.1% 受講者の声：「1人の人間として尊重する」ということが、接するうえでとても大切だと感じ、日常生活で実践していこうと思った。」「DV被害や児童虐待が家庭内での密閉された環境で発生するため、被害が見えにくいといった現状や被害発覚後も支援につながり難い実態がよく理解できた。」

②企業等からの受託研修事業

内容	委託者（数）	回数	参加者
LGBTの理解促進	企業(1)、高校(2)、大学(1)、行政(2)	7回	520人
ハラスメント	行政(2)	2回	150人
計	企業(1)、高校(2)、大学(1)、行政(4)	9回	670人

(4) その他

①財団主催事業

防災講座	目的	過去の災害で明らかになった様々な課題に対応するため、地域防災活動において、男女共同参画の視点を持って企画・方針決定の過程や運営に参画できる人材を育成する。
	対象	全般
	参加者数	76人（うちZoomによる参加者14人） 〔内訳〕広島市42人、三原市4人、福山市8人、廿日市市6人、三次市2人、庄原市2人、東広島市2人、江田島市6人、北広島町2人、熊野町2人
	内容	・災害時の避難所運営などにおいて男女共同参画の視点から明らかになった課題に対応するためのノウハウを身に付ける講座 ・昨年度の延期分2回（9月、10月実施）
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：90.0% 受講者の声：「知識が深まったことで防災意識が高まった。」「避難所における問題点などよく理解できた。」

広島プロフェッショナル談義 【新規】	目的	若年層が将来のキャリア形成を考える上での学びやヒントを得るとともに、男女共同参画の視点の必要性の認識を目的とする。
	対象	小・中・高校生
	参加者数	74人（うちZoom参加12人） 〔内訳〕広島市74人
	内容	広島の様々な分野で活躍する専門家を招き、これまでの人生の歴史から、自分らしいキャリアを拓くためのヒントや人生の選択肢をインタビュー形式で聞き出すセミナー
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：満足度100% 受講者の声：「今後も子どもがプロフェッショナルな方にお会いできる会に参加したい。」

LGBT関連図書バトラー 【新規】	目的	情報スペースの図書を有効活用し、来館者が学ぶことを目的とした読書会・勉強会を実施することで、新たな来館者を増やすことを目的とする。
	対象	全般
	参加者数	9人 〔内訳〕広島市9人
	内容	バトラー4名が選んだLGBT関連の本のプレゼンを行う。
	受講生の評価	受講者の声：「自分のセクシュアリティに関連した、興味深い本を知ることができた。」「実際の学校現場での性についての行動、活動などを知ることができた。」「LGBT等に関する現状、今後の課題が分かった。」

高校生向け出前授業	目的	多様な人々がそれぞれの個性と能力を生かして自立した生活を送り、お互いを理解し尊重することの大切さなどについて学んでもらうことを目的とする。
	対象	高校生
	参加者数	509人 〔内訳〕 県立海田高校 13人， 県立呉三津田高校 10人， 県立賀茂高校 36人， 比治山女子高校 191人， 県立東高校 24人， 県立戸手高校 169人， 県立賀茂北高校 66人
	内容	・男女共同参画の視点を通して働くことの意味についてや，デートDV，LGBTについての授業
	受講生の評価	アンケート調査結果 満足度：96.0% 受講者の声：「実際に体験したことを聞けて，LGBTの人がどういう気持ちでいるのかわかった。」「友達に性同一性障害の子がいて，その子と距離感がたまにわからなくて悩むときがあったけど，今回のセミナーでありのまままでこっちも培っていかうと思えた。」

2 情報事業

(1) ホームページ等

ホームページ	<p>アクセス件数：90,845件（前年度：103,898件） アクセスの多いページ（HOMEを除く）</p> <p>①施設案内・予約（8,432件） ②相談したい方（7,326件） ③エソール広島の概要（5,015件） ④講座情報（2,913件） ⑤講座イベント情報（2,324件） ⑥エソールきらめきトークライブ令和2年度（2,073件） ⑦施設予約状況（1,740件） ⑧エソールひろしま大学（1,068件） ⑨第17期メンタルサポーター養成講座（1,032件）</p>
フェイスブック	<p>投稿回数：163回（情報数172件）（前年度：140回（情報数145件）） フォロワー数：652人</p> <p>主な配信内容：①研修・イベント情報（財団主催）（96件） ②施設情報（23件） ③国・県情報（20件） ④コロナ対策（17件） ⑤図書紹介（16件）</p>
メールマガジン	<p>配信回数：40回（情報数138件）（前年度：23回（情報数95件）） 登録者数：1,078人</p> <p>主な配信内容：①研修・イベント情報（財団主催）（63件） ②イベント情報（共催事業）（41件） ③コロナ対策（13件） ④国・県情報（8件） ⑤図書の紹介（5件） ⑥施設情報（8件）</p>

(2) 文献情報等

区 分		保有数	貸出数	
			前年度	
一般図書	女性問題に関する図書，女性の活動を支援する図書	3,452冊	532冊	936冊
行政資料	国・都道府県作成の男女共同参画に関する調査・統計・報告書等	405冊	(館内閲覧)	(館内閲覧)
DVD	女性の生き方を考える国内外の映画・ドキュメンタリー等	29本	3本	1本